



古代ギリシャを日本に見る

—古代ギリシャ叙事詩と
日本の伝統文化「能」との出会いから—



本年2019年は日本とギリシャの修好120周年の記念すべき年にあたります。

地理的には遠く離れた両国。古代においては直接の接点のない中で、古代ギリシャが日本にどう生きているのかを両国の識者をお迎えし探っていきたいと思えます。

第1部は、古代ギリシャ学研究最高権威のプリンストン高等研究所アングロス・ハニオティス教授に基調講演をお願いしております。第2部では、ハニオティス教授、ホメロスの叙事詩『オデュッセイア』第11歌「ネキア」を現存する世界最古の古代円形劇場で舞われた人間国宝四世梅若実玄祥師、その画期的な演出でギリシャにおける重要な演劇賞に輝いた演出家ミハイル・マルマリノス氏、この作品を企画制作した『冥府行～NEKYIA』プロデューサー伊藤寿氏の4名をパネリストにお迎えしました。今回もハニオティス教授の招聘にご尽力いただきましたが、藤井崇関西学院大学准教授にモデレーターをお願いしまして、対談を通じて本テーマを浮かび上がらせていきたいと思えます。

日 時 2019年6月4日(火) 18:00~20:00 (開場17:40)

場 所 大妻女子大学千代田キャンパス 本館E棟地下1階 055教室

参加費 無料

参加方法 日本ギリシャ協会ホームページの参加登録フォームより
<https://www.japan-greece-society.jp>

(セキュリティの観点から事前登録のない方は入場できません。)

言 語 日英同時通訳あり

会場のご案内

【住所】千代田区三番町12番地

【交通】JR市ヶ谷駅

- 改札を出て徒歩10分
地下鉄市ヶ谷駅
- A3出口を出て徒歩7分
地下鉄半蔵門線
- 5番出口を出て徒歩5分
地下鉄九段駅
- 2番出口を出て 徒歩12分



- ◇主催: 日本ギリシャ協会
- ◇後援: 駐日ギリシャ大使館
- ◇協力: 公益財団法人梅若会 ダンスウエスト 伊藤事務所
- ◇協賛・協力: 関西学院大学 大妻女子大学

日本ギリシャ協会事務局 (住友生命秘書室内) 担当(川上・武内)
Tel:03-5550-9510 Fax:03-5550-1132 e-mail:info@japan-greece-society.jp

講師・パネリスト・モデレーター略歴



アンゲロス・ハニオティス

1959年、アテネ生まれ。アテネ大学(1978-82)とハイデルベルク大学(1982-84)で古代史と考古学を学び、博士号(1984)と教授資格(1992)をハイデルベルク大学にて取得した。ニューヨーク大学の古代史教授(1994-98)、ハイデルベルク大学の古代史教授(1998-2006)、ハイデルベルク大学副学長(2001-06)、オクスフォード大学オール・ソウルズ学寮の上級研究員(2006-10)を歴任。2010年より、プリンストン高等研究所の古代史・古典学教授。6冊の単著、30冊以上の編著、250編以上の論文を著している。主な研究テーマは、ヘレニズム世界ならびにローマ帝国東方属州の社会と文化で、特に、公的生活の劇場性、歴史的記憶、アイデンティティ、宗教の社会的側面、感情、戦争、現代世界における古典学の意味に関心を持っている。英語、ドイツ語、ギリシャ語で出版された書物のうち、もっとも重要なものは以下の通り。

『ギリシャ語銘文における歴史叙述と歴史家』(1988)、『ヘレニズム時代のクレタ島における都市間条約』(1996)、『ヘレニズム世界の戦争：社会と文化』(2005)、『ヘレニズム世界における劇場性と公的生活』(2009)、『征服の時代：アレクサンドロスからハドリアヌスまでのギリシャ世界』(2017)。

感情、説得技法、宗教、儀礼、銘文学に関する研究にたいし、ドイツ研究振興協会、欧州研究会議、バーデン＝ヴュルテンベルク州研究省、バツカード人文学インスティテュートの各機関より、計300万ユーロ以上の研究資金を授与されている。これまでに、ニコス・スヴォオロノス賞(1991)、ニューヨーク大学教育金賞(1997)、バーデン＝ヴュルテンベルク州研究賞(2000)、ギリシャ文学賞(エッセイ部門、2010)、そしてアレクサンダー・フォン・フンボルト財団のアンネリーゼ・マイヤー賞(2014)を受賞している。アテネ、ハイデルベルク、フィンランドの各アカデミーの客員会員、イタリア研究協議会の会員をつとめる。ヘレニック国際大学(2012)、リエージュ大学(2016)、テッサロニキ大学(2017)より名誉博士号を授与され、2013年には、ギリシャ共和国大統領より、フェニックス章(コマンダー)を与えられた。

梅若 実玄祥 (うめわか・みのるげんしょう)

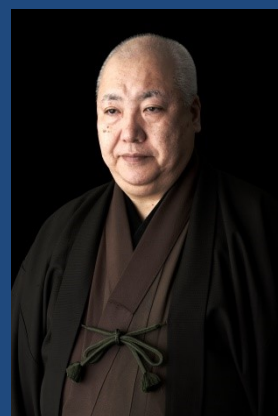
能楽観世流シテ方
日本藝術院会員
重要無形文化財各個認定(人間国宝)保持者

1948年 東京生まれ。1951年 能『鞍馬天狗』子方で初舞台、17歳で『道成寺』を抜く。1979年 梅若六郎家当主継承。1988年 五拾六世 梅若六郎を襲名。2008年12月 梅若家中興の祖である玄祥の名を後世に残す為、345年ぶりに名跡復活、二代 玄祥と舞台名を改める。古典は基より廃絶された能の復曲、新作能の上演に自ら出演・演出するなど華のある舞台で常に注目を集め、名実ともに第一線で活躍、現代に生きる古典芸能としての能を支えている。海外招聘公演も多く能の普及と国際文化交流の一役を担っている。2018年2月、三世 実を亡き父に追贈し、曾祖父、祖父に続き梅若家の大名跡、四世 梅若 実を襲名した。

おもな受賞歴：

芸術祭優秀賞(1980)、芸術選奨文部大臣新人賞(1987)、第1回讀賣演劇大賞 演出家部門選考委員特別賞(1994)、松尾芸能賞(1995)、讀賣演劇大賞 主演男優部門優秀賞(1999)、日本藝術院賞(1999) ほか 多数

紫綬褒章 受章(2006)
日本藝術院会員 拝命(2007)
重要無形文化財各個(人間国宝)認定(2014)
フランス 芸術文化勲章 シュヴァリエ叙勲(2018)



撮影 森山雅智



ミハイル・マルマリノス

アテネ生まれ。
大学で神経生物学と演劇を学ぶ。
1983年にdiplous Erosという劇団を立ち上げ、最初の作品を発表した直後から政府の助成金を受ける。その後変遷を経て、現在のTheseum Ensembleに至る。
毎年のようにギリシャを中心とした欧州で重要な作品を発表し続けている。また2013年には、パリのコメディ・フランセーズにて「フェードル」を演出。ギリシャを代表する演劇人である。
2016年には、フランス芸術文化勲章(シュヴァリエ)を授与される。

【近年の演出作品】

2012-2013 真夏の夜の夢 シェイクスピア (アテネ国立劇場)
2013 フェードル ラシーヌ (パリ コメディ・フランセーズ)
2014 ファウスト ゲーテ (アテネ オナシス文化センター)
2015 ネキア ホメロス (東京/エピダウロス)
2016 女の平和 アリストファネス (エピダウロス/アテネ国立劇場)
2016-2017 ドン・ジョヴァンニ モリエール (アテネ オナシス文化センター)

【出演作品】

『ヘレネ』『王女メディア』エウリピデス (エピダウロス)
『オイディプス王』『コロノスのオイディプス』ソフォクレス (アテネ国立劇場)
『ピロクテテース』ソフォクレス (ギリシャ・フェスティバルにて)

伊藤 寿

1964年東京生まれ。
古今東西の演劇、ダンス、音楽など舞台芸術全般でプロデューサーとして活動。
近年の主な仕事としては以下がある。
シディ・ラルビ・シェルカウイ振付「スートラ」(2008)、鼓童ブラジル公演(2008)、アクラム・カーン振付「bahok」(2008)、熊本県山鹿市・バルセロナ市共同事業 セスク・ジェラベル、フレデリック・アマト演出「KI」(2010)、梅若玄祥アムステルダム、アテネ公演(2010)、シェルカウイ振付「テヅカ」(2011)、宮内庁楽部・雅楽欧州公演(2012)、Nekyia/冥府行(2015)、シェルカウイ演出 PLUTO(2015/2018)、WRECKING CREW ORCHESTRA/EL SQUAD海外ツアー(2014-)、エバ・ジェルバブエナ振付Cuentos de Azúcar(2018)



藤井 崇

1978年、山口県生まれ。
京都大学文学部(2001)、京都大学大学院文学研究科修士課程(2003)、ハイデルベルク大学哲学部古代史・銘文学ゼミナール博士課程(2010、Ph.D.)で西洋古代史を学ぶ。チューリッヒ大学歴史学部研究員(2009-10)、オクスフォード大学ウルフソン学寮研究員(2010-13)、京都大学白眉センター特定助教(2013-15)を経て、2015年より関西学院大学文学部西洋史学専修准教授。専攻はヘレニズム史、ローマ史、ギリシャ語銘文学。単著(英文)に『ローマ帝政期キプロスにおける皇帝崇拜と皇帝の表象』(2013)がある。



プログラム

18:00～18:10	日本ギリシャ協会会長 横山進一挨拶 駐日ギリシャ特命全権大使 コンスタンティン・カキュシス閣下ご挨拶 大妻女子大学 伊藤正直学長ご挨拶
第1部	
18:10～18:50	基調講演 プリンストン高等研究所 アンゲロス・ハニオティス教授 「古代ギリシャ人の感情とその現代的意義 Ancient Greek Emotions: Why Do They Matter Today? 」
18:50～19:00	休憩
第2部	
19:00～20:00	パネルディスカッション 古代のギリシャを現代の能で語る －死者の声・感情・パフォーマンス－
	* 映像 「冥府行～NEKYIA(ネキア)」から (アテネ・エピダウロス・フェスティバル2015参加作品 世界遺産エピダウロス古代円形劇場にて)
	モデレーター 関西学院大学准教授 藤井 崇 パネリスト プリンストン高等研究所教授 アンゲロス・ハニオティス 人間国宝 四世 梅若 実玄祥 演出家 ミハイル・マルマリノス(ギリシャから参加) 伊藤事務所代表 伊藤 寿
20:00	閉会
20:10～	交流会(予定)



Photo: Evi Fylaktou © 2015

